



2つのポイントで 子どもも大人も笑顔に！

教育関連の書籍では、「褒めて育てる」ことの効果が謳われることが多くなりました。確かに、子どもたちは褒めることで自信を付けますし、大人の声掛けによって行動に良い変化が見られることもあります。しかし、実際のところは「そもそもいつ、どのように声を掛けたいのかかわからない」とお困りの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今回は、ご家庭で取り組めそうなことを2点ご紹介いたします。

ポイント① 伝え方を変える

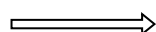


行動の否定・抽象的な叱り方



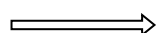
聞き取り・具体的な指示や提案

「早くしなさい！」



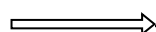
「〇〇を終えたら～ができるね！」

「なんでそういうことするの！」



「どうしたかったの？」

「うるさい！」



〔(低学年)「〇〇が終わるまでは忍者だよ！」

〔(高学年)「〇〇が終わるまでは静かに待っていてね」

ポイント② 「一瞬のタイミング」をのがさない

(普段は食事のマナーが守れない子が、
ひと口きれいに食べた！)

(普段はテレビゲームばかりしている子が、
遊びの輪に参加した！)



今の食べ方、
大人みたいで
恰好よかった～！



こうして〇〇さんと
一緒に遊ぶの、
楽しいな。

子どもに促したいことがあるときに、「～ができた、(お小遣い/欲しいもの)をあげる。」という手段を時々耳にします。しかし、そのようなケースでは「その1回は頑張れたけれど、次につながらない」ということが多いです。「自分で頑張ろう」と思っていた気持ちが、お金や物で報酬をもらうことで「誰かにやらされている」という意識にすり替わってしまうのだそうです。この現象は、「アンダーマイニング効果」という名前までついていました。伝え方とタイミングを意識した声掛けをすることで子どもは【欲しいときに、欲しい一言をもらえた】という気持ちになり、自然と自分からやろうとする行動につながっていきます。

☆お子さんのことでご相談がありましたら、いつでもご連絡ください。

連絡先

特別支援教育コーディネーター

川原 未来 (音楽専科) 03-3399-3138 (学校代表)

河合 香織 (はちなり教室) 03-3399-3181 (はちなり教室直通)

スクールカウンセラー 【火曜日出勤】

浦山 伸悟

03-3399-3160 (スクールカウンセラー直通)